

市民協働による保全とワイズユースを目指す谷津干潟自然観察センターのCEPAについて  
CEPA at the Yatsu-higata Nature Observation Center that aim for conservation  
with civic collaboration and Wise Use

小山 文子 (習志野市谷津干潟自然観察センター)

Fumiko Oyama (Yatsu-Higata Nature Observation Center)

foyama@seibu-la.co.jp

谷津干潟の南岸に位置する谷津干潟自然観察センターは、1994 年の開設から 2006 年まで習志野市の直営で、2007 年から指定管理者制度に移行し、現在は西武造園(株)・NPO 法人生態教育センター・林造園土木(株)による「谷津干潟ワイズユース・パートナーズ」が運営している。非常勤を含む 16 名のスタッフのうち常勤スタッフ 6 名が広報と教育に専従している。谷津干潟が住宅地や学校に隣接し、都市部にある立地条件のもと、観察センターは市民協働による谷津干潟の保全とワイズユースを目指して、主に以下の市民参加事業を展開している。

**谷津干潟自然観察センターボランティア** 観察センター事業の主旨に賛同することを条件に、年間登録制で中学生から 80 代まで 140 名が登録している。イベント運営や展示物作成、環境管理作業や来館者案内など約 20 種類の活動がある。

**谷津干潟の日運営委員会** 習志野市が環境基本条例で定めたラムサール条約登録を記念するイベント「谷津干潟の日」を企画運営する。自治会や町内会、高校教員と生徒、商店街、市民団体、観察センターボランティア、谷津干潟ユースで構成する委員会を毎年設置している。なお、2019 年はブース出店者や出演者を含む約 1,100 名の協力者がイベント運営を支え、約 15,000 名の来場者に谷津干潟に触れる場を提供した。

**湿地交流ボランティア** 習志野市は、渡り鳥の保護と湿地の保全を目的に豪州・ブリスベン市と 1998 年に姉妹湿地提携を結んでいる。2018 年は 13 名のボランティアがブリスベンを訪問し、2019 年は先方の湿地関係者が谷津干潟を訪問するので、ボランティアと共に双方の湿地と渡り鳥の情報交換会などの受け入れ計画を策定している。

**谷津干潟ユース** 高校生と大学生約 50 名が主体となり谷津干潟のワイズユースについて考え、調査やイベントを実施することで谷津干潟の保全に貢献している。

**谷津干潟ジュニアレンジャー** 小学 3 年生から中学 3 年生が対象の人材育成プログラムで、谷津干潟を通して自然に触れ、自然を学び、自然を守る心を育てる場をステップ制で提供している。現在、ステップ 3 とリーダーとして活動する子供は 24 名になる。

以上のように、観察センターでは幅広い年齢層が谷津干潟の保全とワイズユースの担い手として活動している。一方、一人の市民が保全とワイズユースを実践するまでには干潟に親しみ・干潟を知る経験やコミュニケーション・スキルが必要で、観察センタースタッフは参加の段階に応じてコーディネートすることが求められ、それが数年にわたる場合もある。

今後は干潟で問題になっているアオサやホンビノスガイのワイズユースの取り組みを地域協働で推進していきたい。そのためには CEPA を推進するスタッフを育成し人員を確保する他、習志野市や環境省と市民協働の考え方について共有認識を持つことが重要と考えている。

キーワード：CEPA、人材育成、市民参加、地域協働、コーディネート